



松小だより

9月号
高松市立松島小学校

「夏休みのおみやげ」

学校に子どもたちの明るく元気な姿が戻り一気ににぎやかになりました。



全校集会

朝「おはよう」と声掛けすると「〇〇へ行ってきたよ」とか「〇〇ができるようになったよ」などと話してくれ、どの子ども一回り大きく成長したと感じました。

私も、この夏休み、多くの感動を覚えたり、心に残る講演を聞いたりしましたので、皆さんへその感動をお伝えしたいと思います。

まず、何といたっても一番は北京オリンピックの感動でした。柔道やサッカー・野球・水泳など、生中継やハイライトなど日本人選手の頑張っている様子をハラハラしながら見ていました。

北島選手の連続2冠など心に残る数多くの場面の中、私は男子体操の内村航平選手が苦手なあん馬種目で2度も落ちながらも諦めず最後まで演技を続けたことが強く印象に残りました。結果、その後の種目で高得点を取り、24年ぶりの体操個人総合銀メダルを取ることができました。新聞記事によると、「もうだめか」と思っていたところ、コーチがアテネオリンピックで同じように失敗をしながら見事に復活し金メダルを取ったポール・ハム選手のことを内村選手に話したところ、内村選手自身もそのシーンを覚えており、心と体が楽になり気持ちを切り替えて頑張ることができたとのことでした。テレビであん馬から2度落ちたシーンを見ていましたが私も「これはもう無理だな」「せっかくこれまで高得点できていたのに残念」など思っていました。最後まで諦めず頑張ることの大切さをあらためて学びました。

続いては、全国PTA研究大会特別第2分科会東北大学川島隆太先生の「読書で脳を活性化する」という講演でした。内容はこれまでもよく言われていたことでしたが、データを基に科学的にお話されていたのでとてもよく分かり、頭の中にスーと入ってきました。一緒にお話を聴いていた皆さんも納得声？を出したり、時には笑ったりしながら楽しく聴いていました。そのお話の中で、特に印象深かったことは次の内容でした。(脳が活性化していると色が変わることをご自身の息子さん(4男)の実験で見せてくださいました。)

- 早寝・早起きの子は脳の発達が良く、充実した朝食は特に脳が刺激を受ける。
- 声に出して本を読むことにより、脳は特に強い刺激を受ける。(学校の音読の宿題など、毎日しっかり聞いてあげること。)
- 書くことは、読む以上に強い刺激を受け、相手を意識した手紙を書くことなどは特にいい。
- 親子のコミュニケーションを図ること。(音読、旅行、遊び)
- 手指を使って何かを作ること。(料理・楽器演奏・絵画・工作・文字など)
- 大人は、どんどん脳細胞が壊れていっているが、読み書き・計算などで脳を刺激することにより認知症の防止になる。

【ホームページをご覧ください】

6月より徐々にホームページを更新しています。特に、トップページに「今日一枚」コーナーをおき、主な教育活動を写真入りで紹介しています。紹介した内容はデータとして蓄積しています。この夏休みもたくさんの教育活動を掲載していますので是非ご覧ください。今後も、充実を図っていきます。

アドレスは <http://www.edu-tens.net/syoHP/matusimaHP/> です。「高松市立松島小学校」と検索すると一番上に表示されます。



川島先生の講演



【文科省学習状況調査結果の公表についてのお知らせ】

4月22日に実施しました全国学力・学習状況調査の結果につきましては、1学期末の個人懇談会の折りに担任より個人票を配布し、個人結果の説明させていただく予定です。